

Y19b 天プラによる地域の力を活かした天文普及活動

平松 正顕(東大理)、高梨 直紘、亀谷 和久(東大天文センター)、塚田 健(東京学芸大)、天プラ地域協力ワーキンググループ

天文学とプラネタリウム(天プラ)では、三鷹地区をモデルに地域の活力を活かした天文普及活動に取り組んできたので、その活動理念と活動実績を紹介する。

観望会や講演会など従来から行われてきた天文教育・普及活動の多くは、研究者や天文教育に携わる者から市民へアプローチしていくというスタイルを取っている。しかし、真にニーズに合致した活動を継続的に無理なく行っていくには、そのような活動を享受する側にあった市民を企画実行の側に取り込み互いに協力することが有効な手段の一つであると考えられる。

この考えの下、「市民から市民への天文学の楽しみの伝達」というスタイルの構築を目指し、体験型天文講座「みたか宇宙塾」を開催した。受講生が家庭や地域に戻った際に天文学の楽しみの伝道者となることを目指し、基礎的な天文学の知識とともに望遠鏡の使い方を学んだ修了者には我々が所有する望遠鏡を借り出す権利を与えることとした。さらに無料の託児サービスを付加することにより、幼児の親でも参加しやすくした。

また三鷹地域では、学校支援や子育て支援など様々な市民NPOが活動を行っている。我々はこれらNPOと協力することで、小学校の天文クラブの運営やNPO主催イベントへの天文知識を活かした協力活動などを行っている。こうした協力の結果として市民自身が「科学コミュニケーター」として自主的に活動を始め、あるいはより日常的な感覚で天文学あるいは科学と接する機会を作ることによって、科学を楽しむ文化の醸成を期待することができると考えている。発表では、詳細な事例報告とともに今後の課題についても述べる。